後拾遺和歌集・新古今和歌集

年　組　番

得点　／30

問一　次の漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

①　誰（　　）　②　紅葉（　　）

③　有明（　　）　④　煙（　　）

問二　次の傍線部の語句の意味を書きなさい。

①　あくがれ出づる魂かとぞ見る（　　）

②　夕べは秋となに思ひけむ（　　）

③　跡まで見ゆる雪のむら消え（　　）

④　浦の苫屋の秋の夕暮れ（　　）

⑤　玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば（　　）

⑥　忍ぶることの弱りもぞする（　　）

問三　次の傍線部の助詞の種類と意味を答えなさい。

①　誰かまた花橘に思ひ出でむ我も昔の人となりなば（　　助詞・　　）

②　見渡せば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮れ（　　助詞・　　）

③　志賀の浦や遠ざかりゆく波間より凍りて出づる有明の月（　　助詞・　　）

④　玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする（　　助詞・　　）

問四　次の歌は『古今和歌集』の歌を踏まえている。こうした技法を何と呼ぶか答えなさい。

誰かまた花橘に思ひ出でむ我も昔の人となりなば（　　）

問五　（　　）内の適切な語を選んで○で囲み、有明の月についての説明を完成させなさい。

有明の月は陰暦の下旬、（夕方・明け方）の空に（残っている・昇ってくる）月である。

後拾遺和歌集・新古今和歌集

☆解答例と配点

問一　①たれ　②もみじ　③ありあけ　④けぶり　〈１点×４〉

問二　①抜け出した　②なぜ思っていたのだろう　③まだらに消えること
④粗末な小屋　⑤命　⑥弱るといけない〈２点×６〉

問三　①接続助詞・順接の仮定条件　②係助詞・列挙　③間投助詞・詠嘆
④格助詞・主格　〈２点×４〉

問四　本歌取り〈２点×１〉

問五　明け方・残っている〈２点×２〉

（計30点）